



T T A K

H27年11月
T・TAK発行

退院後も

つながります

あなたの

こころとからだ

こたつの恋しい季節になりました。皆様はお元気でお過ごしでしょうか？
寒さに向かう季節、風邪などお召しになりませぬように・・・

今回は、『総合診療科・嶋崎洋一医師』にインタビュー！！

(しまさき ひろかず)



総合診療科の嶋崎洋一医師を紹介します！

※プロフィールを教えてください。

昭和の時代の終わり頃に医学部を卒業し、神戸の震災の次の年から約20年、ほぼずっと当院の麻酔科非常勤だったので、以前より当院に関わりのある方はお馴染みだと思いますが、平成生まれの若い人には絶滅種みたいなものでしょうか。

※総合診療科とは何をするのですか？

去年の4月から総合診療科の外来を担当しています。
総合診療科は、病気が何科で診てもらったらいいかわからないとき、風邪などで専門科の敷居が高いと感じるとき、何でもいいからとにかく診てもらいたいときなどに来てください。



総合診療科は病院内外の適切な専門医に必要なに応じて患者さんを振り分けていますが、何でも送るとただでさえお忙しい専門医の先生から怒られたりします。直接電話で「忙しいのに送ってくるな」とお叱りを受けたこともありますし、緊急と思って紹介したら3週間先の外来予約となったこともあります。

播磨病院の先生方は優しいですからそのようなことはありませんがそれに甘えてはいけませんね。疾患を見極めふさわしい専門医に紹介するのは難しいですが、専門医が専門に専念して効率的に仕事ができるためには大事な仕事です。

それでは、総合診療科は病院の案内係なのかというと、それならそれで楽なのかもしれませんが、そういうわけにもいきません。専門といってもありふれた病気全てに専門医が相手をするとは専門科はパンクします。

総合診療科でそのまま診た方がいい場合もあります。調べても適切な専門が見つからないこともあります。

いろんな理由であえて専門診療を希望しない人もいます。



こういふと、総合診療医は専門医ではないと誤解されるかもしれませんが、総合診療専門医という専門医制度がこれからできます。

どんな専門医かというふと、地域のニーズに従って患者と家族を一緒に診て、急性期から慢性期まで通して診ることができ、いろいろな施設と連携して、外来も病棟も救急外来もできる医師だそうです。目が回りそうですね。

※ストレス解消法は？

食べて、飲んで、寝て、野外排糞（気取った言い方をするとハイキング）です。もし線路に迷い込みそうになっているのを見かけたら、やさしく注意してください。決して叱ったりしないでください。行方不明になったら諦めてください。

お忙しい中、ありがとうございました！！
今後の益々のご活躍を期待しております。



地域医療の充実のために貢献したい！熱い気持ちの嶋崎先生です。
病気のことで、困ったことがあったら一度、嶋崎医師の総合診療科を受診するのもおすすめです。

今後も、IHI播磨病院の各部門・先生・スタッフの紹介をします。
次回のT・TAK新聞もお楽しみに！！
バックナンバーは 病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。

by : F.K & K.T